

飲酒運転根絶

重大事故に直結する悪質・危険な飲酒運転が、いまだに後を絶ちません。飲酒運転は運転者本人だけでなく、お酒を提供した人や運転させた人、同乗した人も厳しく罰せられます。宮城県内での飲酒運転事故は、9月末現在、27件発生し、1名の方が亡くなっています。**昨年と比較して、発生件数が5件増加しています。**

◇ 飲酒運転の危険性

- アルコールの影響で
 - ・ 集中力や注意力が鈍る
 - ・ 動体視力が落ち、視野が狭くなる
 - ・ 気が大きくなり、速度超過や乱暴な運転をする
 - ・ 運動能力が低下して、ハンドルやブレーキの操作が遅れる
- 死亡事故率が高くなる
飲酒していない場合と比べて
飲酒運転の死亡率は、約7倍
酒酔い運転の死亡事故率は、約18倍
となり、飲酒運転による交通事故が死亡事故につながる危険性が極めて高い

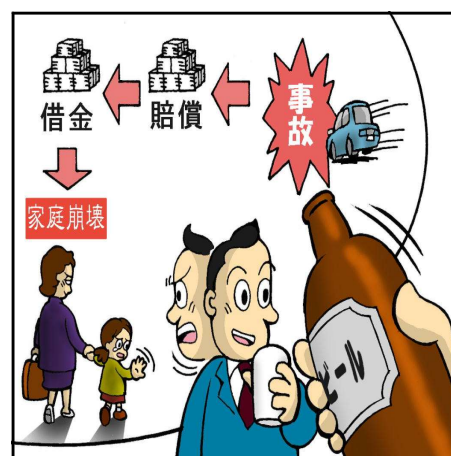


◇ 飲酒運転をなくすための3つの約束

- ・ お酒を飲んだら運転しない
- ・ 運転する人にはお酒を飲ませない
- ・ お酒を飲んだ人には運転させない

◇ 社内における自主的な取組例

- ・ 飲酒運転根絶の社員教育の推進
- ・ 社内報や社内ネット等にアルコールについての記事を掲載する
- ・ 乗務前最低12時間以内の飲酒禁止する



重要

延期されていたアルコールチェッカーによる運転前後の飲酒検知が、12月より、義務化されます。

「検知器を入手されていない場合はなるべく早く入手しましょう」

事業所の **取組強化!**

飲酒運転根絶

令和5年12月からアルコール検知器を用いた酒気帯び確認が義務化されます

待って!



社用車を
運転するのは、

アルコール 検知器で

☑チェック

してからです!

安全運転管理者は、下記の業務が義務化されます

令和4年
4月1日施行

- ☑ 運転前後の運転者の状態を目視等で確認することにより、運転者の酒気帯びの有無を確認すること。
- ☑ 酒気帯びの有無について記録し、記録を1年間保存すること。

令和5年
12月1日施行

- ☑ 運転者の酒気帯びの有無の確認を、アルコール検知器を用いて行うこと。
- ☑ アルコール検知器を常時有効に保持すること。

運転後も☑チェック
しますからね!



警察庁・都道府県警察

